

ごみの内訳

市のごみ等排出量は、平成25年度以降は減少しており、同28年度は、1人1日当たり895グラムとなりましたが、県内の他市町に比べて多い状況が続いています。

今年度は、ごみの分別状況や「食品ロス」の実態を把握し、ごみの減量対策に役立てるため、家庭からどのようなごみが燃やすごみとして出されているのかを調べました。

ごみを12種類に分けたところ、水分を含む重さで約4割が生ごみ、次に多いのは、容器包装プラスチックや雑がみ類（お菓子の空き箱など）でした。

さらに、生ごみを6種類に分けると、「調理くず」に次いで多いものは、「食べ残し」と「未利用食品」（期限切れを含む）で、4割以上を占めていました。食べ残しや未利用食品は、本来、食べられるのに捨てられている食品ロスです。

調査結果から、容器包装プラスチックや雑がみ類のように、適切に分別することによって減らせるごみや、食品ロスのような「もったいない」ごみが多く含まれていることが分かりました。

燃やすごみとして出しているごみの中には、こまめな分別や心がけにより、減らすことができるごみがあります。

例えば、分別するとき、食品などの汚れが付いた容器包装プラスチック類は燃やすごみに出すことができますが、水洗いすることで容器包装プラスチックとして資源化することができます。また、雑がみ類は、雑誌などと同じようにリサイクルができます。

ごみの発生を抑えるためには、買い過ぎて余ってしまう食材や食べ残しを減らすことも大切です。一人ひとりのごみの分け方・出し方がごみを増やすことにも減らすことにもつながるため、ごみ減量へのご協力をお願いします。

